

## ニュージーランドにおける 就学前教育の歴史ならびに現状（一）

松川由紀子

### はじめに

ニュージーランドの就学前教育について述べる前に、若干この国の歴史を紹介しておきたい。

ニュージーランドは、一八四〇年、原住民マオリ族との間にワイタング条約が成立し、英国の植民地となった。<sup>(1)</sup>そして、ウェリントン、ネルソン、オタゴ、カンタベリーなどに計画的な植民がなされ、一八五二年には憲法が定められた。先住民と入植者とが苦しい生活のなかで国家を建設していき、一九〇七年には自治領となった。世界大恐慌の後、一九三五年には労働党が政権につ

き、大規模な社会保障制度が採用され、以来、福祉国家への道を着実に歩んでいる。

一八七七年から無償の義務教育が実施され、一九三六年には十九歳までの教育はすべて無償になったが、では、就学前教育はどのような歴史をもつて発展していったのだろうか。わが国では、ニュージーランドの就学前教育の歴史ならびに現状については、ほとんど全く研究されていないが、就学前教育史研究にとって、あるいは今日の就学前教育を考えていく上で、非常に興味深いものである。以下、詳しく紹介していきたいと思う。

## — 初期のフリーキンダーガルテン

### (1) ダニーデンのキンダーガルテン

一八八九年六月、ニュージーランド最初のフリーキンダーガルテンが、ダニーデンのウォーカー通りのミッションホールにおいて開園された。ダニーデンは、一八四八年にスコットランド人の入植したところで、金発掘やそれに伴う人口増加に助けられて繁栄したオタゴ地方の中心地である。

では、どのような経過で、最初のフリーキンダーガルテンは設立されたのであろうか。聖職のワデル博士 (R. Waddell) は、ダニーデン・イブニングスター紙の編集者コーエン氏 (M. Cohen) にあてた手紙 (一九一三年四月十五日付) で、次のように設立当時を回想している。<sup>(2)</sup>

……毎日、ウォーカー通りを行き来していた時、通りに放任されていた多数の幼い、馬鹿騒ぎする、だらしない服装の、はだしの子どもたちの姿がしばしば私の

印象に残っていた。特に冬の寒い雨の日に、曲り角や戸口の上り段で歓声をあげている、こうした幼い子どもたちの光景を見ると、「こうした子どもたちのために何もなされ得ないのだろうか」と自ら問いかけていた。彼らの家庭は貧しく、家のなかには彼らのための部屋はなかった。それ故、彼らは通りに放任されていた。こうした幼い子どもたちを教会のホールに集めて、暖炉を与え、雇用人ではない若い女性に子どもたちの楽しい相手をさせる、という考えが胸に浮かんだ。そうすれば、子どもたちは家屋ならびによい影響を得るだろうし、何人かの若い女性たちにはキリスト教的な活動の場——それは時がたつうちには彼女たちの責任になっていくものであるが——を与えることになるだろう。キンダーガルテンの着想は私の思索のなかにあった。私は、その着想を次第に発達させようと思ひに想ひ描いた。それから、私は貴殿に会いに行った。どうして貴殿に相談する気になったのか、今は忘れたが、それは、貴殿が教育の仕事に協力的で、キン

ダーガルテンの問題に特別な関心をもっていたからであつたように思う。……貴殿は、キンダーガルテンの着想にただちに飛びついた。貴殿は、レノルズ夫人 (W.H. Reynolds) の関心を得ておくべきだと提案し、私は夫人の関心を得た。それから、私たちはさまざまな問題を論じた。その次に、ケルシー嬢——当時、彼女は彼女の学校でキンダーガルテン的なやり方で何らかしていたので——に相談したように思う。貴殿は、教育養成を受けた教師 (trained teacher) を確保すべきであるという意見をはっきりもっていた。しかし、どこで教師が確保され、どこから教師に支払う金銭が得られたのか。私は、教師の給与として必要な資金を集められるかどうかを調べることにとりかかり、そして、グレイ氏を訪問した。驚いたことに、彼は、年に二十五ポンド、それを二年間寄付するという約束をしてくれた。グレイ氏の事務所から出た時に抱いた、歓喜のわくわくする感じを今でも覚えている。教師の給与は五〇ポンド考えていたが、それが私たちの手の届

くところにある、と私は感じた。そして、そうだった。それから、私たちは——ケルシー嬢からだったと思うが——教育的側面よりもむしろ伝道的側面に関心をもっていた。教育養成を受けた教師、ワイニキ嬢 (W. Wienieke) のことをきいた。彼女は、クライストチャーチのパパヌイで、一種のキンダーガルテンをつましくしていた。この時までには、私たちの小さな仲間が委員会に発展していた。……私は、ワイニキ嬢について調査する任務が与えられ、そしてそれをした。私は彼女にいくつかの事柄について説明した。彼女は喜んで行くと述べた。彼女が最も好ましく思ったのは、計画のなかの伝道的側面であつた。……委員会で賛同され、彼女はやって来た。教会は、私の依頼に応じて建物を無料提供した。……それからレノルズ夫人の援助が得られた。……私の記憶する限り、これがダニーデンにおけるフリーキンダーガルテン運動の初期の歴史である。

こうして、多くの人々の善意と寄付によって最初のフリーキンダーガルテンが設立された。なお、ワデル博士は、四十年間、ダニードンの長老派の聖アンドリュー教会の聖職にあった人である。また彼は、二十七年間、ダニードン・イブニングスター紙の週刊コラムの寄稿者であった。フリーキンダーガルテン運動は、既述の通り、その誕生を、幼い子どもたちの必要とするものに対する彼の理解に負うている。

では、当時、このフリーキンダーガルテン運動を推進した人々は、フリーキンダーガルテンをどのようなものとして考えていたのだろうか。一八八九年三月、最初のフリーキンダーガルテンが創立される三カ月前、その創立を目的にした会議がタウンホールでなされ、そこで（先ほどのワデル博士の手紙のなかにあった）委員会が設置されたのであるが、その時の様子が、オタゴ・デイリータイムズ紙（三月五日付）に詳しく報道された。スーター司教（Bishop Suter）は、タウンホールに集まった多くの聴衆を前にして、次のような見事な演説をし

た。そこには、当時の運動を起こした人々のキンダーガルテンならびに就学前教育に対する理解が、どのようなものであったかがよく示されているので、これをみてみよう。<sup>(3)</sup>

今夕、私たちは青年のことではなく、子どもたちのことを考えている。青年期の教育はやっと最近になって相應の注意を得てきているが、子どもたちの養育は、いまだに考慮されていない。この方面の改善に対しては、二人の男性に負うところがある。それは、スイス人のペスタロッツと、プロシヤのチューリッゲン生まれのフレーベルである。フレーベルは、ペスタロッツの弟子で、一八五二年、非常な老齢で死んだが、多くの改革者たちと運命を共にし、無政府主義的傾向へ転嫁し、社会主義ならびに非宗教のかどでプロシヤ政府より非難された。神が教育の最初の段階において認められなければならない、そして宗教に基づかない教育はすべて非生産的である、と明記したまさにその人で

あったのだが。そして、英国や米国において、最も宗教的な影響を強調する人々の間で、フレーベルの体系は支持され、広められていったのだが。……

一歳から五、六歳までの時期は、注意を要する。

……最初の印象、そして概念や習慣が形成されるこれらの重要な数年が、私たちに最も慎重な取り扱いを要求する時、私たちは、次のような諸事実に気づく。子ども達の心の感受性。知的、宗教的、肉体的な（これが最も強い動機になる）いろいろな活動から得られる喜びの感覚。驚異的に早期に発達する模倣の機能。……同情の感覚。社会性の感覚……。成長の原則。……

さて、私たちはどのように始めるべきであろうか。

ここでは、子どもたちに学習入門書を仮定しない。それは、たやすい。私たちの仕事はもっとむづかしいものだ。子どもたちの本性は、すべて互いに異なっている。誰ひとりとして同じ観察力や活動力を有しはしない。この点で、個々人の承認ということが、キンダーガルテンのひとつの基本的な特徴になる。むづかしい

ことだが、それ故、誇り多いものになる。キンダーガルテンは個々人の本性を取り扱い、それらを集合体とはみなさない。……

私たちが、いやくもこの点を理解したならば、こうした仕事をうまくなすためには、教師として最も注目値する人物を要しなければならない、という結論にならざるを得ない。天性は教師の性別を指し示しているようである。これはあまりにも母性的な問題であるので、女性以外に任せられることはできない。もし、キンダーガルテンの学校が公平に扱われるならば、それは、必然的に費用のかかるものである。小学校一、二年よりも、児童数に対する教師の割合はより高いものを要し、そして、適確な教師は容易に確保されるわけではなく、確保された時には高給が支払われなければならない。しかし、結果は非常に重要なものである。

このように、フリーキンダーガルテン運動の指導者た

ち（ワデル博士、コーエン氏、スーター司教たち）は、すでにこの時点から、社会的救済面だけでなく、就学前教育のもつ重要性、とりわけ教師の重要性を理解していたことがわかる。この会議で、委員会（後のダニーデン・フリーキンダーガルテン協会）が設置され、レノルズ夫人を委員長としてそのメンバーが選出された。フリーキンダーガルテン設置のための手段、方法を探究することが委員会の任務とされた。そして、三カ月後、仕事の伝道的側面に関心をもったワイニキ嬢が最初のフリーキンダーガルテン教師として就任し、キンダーガルテンが開園されたのである。ワイニキ嬢は、その間の事情をレノルズ夫人にあてた手紙（一九一三年五月二日付）で、次のように回想している。<sup>(5)</sup>

最初に私を訪ねてきたのは、ヴァード嬢を同伴したフリーマン嬢でした。私は、クライストチャーチの私の学校で大変幸福でしたので、最初はダニーデンに行く気になりませんでした。しかし、子どもたちの親

たちの家庭で、多くの機会が私に与えられるだろうと考えた時、私は主にこの歩みについて尋ねました。

フリーマン嬢は、数カ月後にワデル博士が訪問するだろうと私に申しました。フリーマン嬢の訪問はクリスマス休暇中でした。ワデル博士が訪ねてきて、午前中、私の学校を見学して、そして私に、ダニーデンでフリーキンダーガルテンを始めてみてはどうかと尋ねました。私はキリスト教徒ですので、キリストについて教えないかもしれませんが、その条件が受け入れられるならば引き受けられます。と博士に伝えました。

博士は、貴女はキンダーガルテンの教育が容認するすべてのことをするように教えることが認められています、と私に申しました。博士とのこの会見後十日ほどして、私は、フリーキンダーガルテンの教師として委員会に承認された、という博士からの電報を受け取りました。また、私はその電報で、六月一日にダニーデンにこられるかどうか尋ねられました。

キンダーガルテンは、六月十日に開園される予定です

したが、十四日に延期されたようにはつきり覚えております。……

なお、レノルズ夫人は、ダニーデン・フリーキンダーガルテン協会の会長（一八八九—一九〇〇年在任）として運動に献身した人である。

その後、ダニーデンにおいては、一、二のキンダーガルテンが設立されたり、閉鎖されたりしたが、一九〇六年に南ダニーデンキンダーガルテンが、一九〇八年にはキャパーシムの長老教会ホールに一園が開園された。<sup>(4)</sup> 後者は、後に一九二六年、ハドソン兄弟から寄贈された建物に移転し、リチャード・ハドソンキンダーガルテンとして新たに出発した。前者は、独立した園舎を建設するために熱心に資金集めがなされ、一九一四年、当時ニュージーランドで最も設備の整ったキンダーガルテン、レイチェル・レノルズキンダーガルテンとして（レノルズ夫人をたたえて）新たに出発した。その建物の様子が、オタゴ・デイリータイムズ紙（一九一三年五月五日付、

土台石が据えられた時）に、次のように報告されている。<sup>(6)</sup>

グラウンドに太陽がよくあたり、庭として利用できるようにできるだけするために、建物は敷地の背後に接して建てられていた。建物の全長に渡って幅広いベランダが設けられていて、その両端には日よけが施されている。八十名を収容するホールはいろいろな目的に使用できるだろう。……また、ロッカー室、教員室ならびに台所も設置されている。

そして、一九一四年には、三カ所のキンダーガルテンに二七九名の幼児が参加していた、と記録されている。

## (2) クライストチャーチのキンダーガルテン

一八八九年に設立されたダニーデンのフリーキンダーガルテンが、ニュージーランド最初のフリーキンダーガルテンとして位置づけられ、キンダーガルテン史上、注

目されているが、すでに一八七八年、キンダーガルテンのメソッドはカンタベリーのいくつかの学校に導入されていた。<sup>(7)</sup> 英国でフレーベル式の教員養成を受けていたクウィーニー嬢 (A. Guiney) が、キンダーガルテン関係の女教師として、クライストチャーチの師範学校に任命されていた。一八七八年のカンタベリー教育委員会の報告には、彼女はベスタロッツとフレーベルの教育原理に基づいた実践をしていて、かなり成功をおさめていたが、建物の不備、不十分な援助のために、その活動が妨げられていた、とある。そして、一八八〇年には財政の後退があり、教育助成金は削られ、キンダーガルテンのメソッドは中止され、その後一九一一年まで再建されなかった。しかし、クライストチャーチにおいては、私的なキンダーガルテンは設立され、盛んであったという。

そして、一八九八年、任意団体の児童援助会（後のクライストチャーチ・フリーキンダーガルテン協会）は、恵まれない家庭の子どもたちの救済のための立法導入を求めたり、キンダーガルテンやクレッシュ（保育園）の

設立を唱道したりした。特に、会の秘書であったマックームズ夫人 (E. McCombs) は、病気の母親、働く母親たちを援助するために、キンダーガルテンの設立を強く主張していた。翌一八九九年、会の後援で、サンビームキンダーガルテンが設立され、私的な寄付や親たちからの少額の保育料支払いによって、一九一〇年まで維持された。一九〇五年には、児童援助会下のフリーキンダーガルテンに二三五名の幼児が通っていた。

これらのキンダーガルテンの設立、維持のための費用を工面することは厄介なことで、会の活動の継続をおびやかすほどの費用がかかっていた。そこで、一九一一年、公の協議がもたれ、「クレッシュならびにキンダーガルテン」協会の設置が決議され、初代会長にテイロア夫人 (T.E. Taylor) が就任した。そして、「きれいな庭と明るく通風のよい建物、ならびに就学前教育に対する最新の方法で教員養成を受けた教師が必要である」といった規準を作成したり、ウェリントンの視学長を訪問して、キンダーガルテン教員免許状を交付することの必要



性を力説したりした。一九一一年、協会下のフリーキンダーガルテンとして、新たに独立した建物においてサンビームキンダーガルテンが、また、フィリップスタウンキンダーガルテン（一九一一年）とシデウンハムキンダーガルテン（一九一二年）がそれぞれストリートホールにおいて設立された。

一九一一年、師範学校のキンダーガルテン・メソッドの責任者に任命されたインクペン嬢は、翌年、サンビームキンダーガルテンを訪問して、有資格の教師と二名の見習いのもとで、よく計画されたプログラムがくりひろげられていたことを報告している。この教師は、協会によって「英国出身の女性で、キンダーガルテン、メソッドに精通していて、就学前教育の経験もかなりあり、非常に推薦できる」と評されていたハル嬢(H. Hull)であった。彼女は、英国でフレイベル式の教員養成を受けていた人で、クライストチャーチのキンダーガルテン教員養成面の指導者として二十五年間務めた。なお、キンダーガルテンの教員養成は、一九一一年から一九四一年ま

では、このサンビームキンダーガルテンで行なわれていた。

このように、クライストチャーチにおいても、ダニール同様、社会的救済面だけではなく、キンダーガルテンにおける有資格教師の重要性が運動の初期に理解されていた。(山口女子大学)

#### 註

- (1) このところは、キース・シンクレア著『ニュージーランド史——南海の英国から太平洋国家へ』（評論社、一九八二年）を参考にした。なお、この著者はオークランド大学史学科の教授。
- (2) Helen Downer (ed.): *Seventy Five Years of Free Kindergartens in New Zealand, 1889-1964*, New Zealand Free Kindergarten Union, 1964, pp. 5-7. なお、この編者は、ニュージーランド・フリーキンダーガルテン連盟の会長（一九五七—六六年在任）。
- Ibid.*, pp. 8-9.
- Ibid.*, pp. 10-11.
- (3) *Ibid.*, pp. 7-8.
- (4) Isobel Christison: *A Survey of Preschool Educational Services in New Zealand*, Unpublished M.A. thesis, Victoria University of Wellington, 1965, p. 13. なお、この著者は、教育省の就学前教育専門官（当時）。
- (5) 以下の記述は、次の書物を参照した。
- (6) Patricia M. Lockhard (ed.): *Kindergartens in New Zealand, 1889-1975*, New Zealand Free Kindergarten Union, 1975, p. 20.
- (7) Myrtle Simpson: *The Free Kindergarten Movement in New Zealand*, New Zealand Free Kindergarten Union, 1970, pp. 7-9. なお、この著者は、クライストチャーチの上級視学官（当時）。